

# グローバル・エコノミーと民族の問題: 多民族国家ハプスブルク帝国の解体に至る経験

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2022-07-07 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Kamijo, Isamu メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24517/00066717">https://doi.org/10.24517/00066717</a>

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



# グローバル・エコノミーと民族の問題-多民族国家ハプスブルク帝国の解体に至る経験

Research Project

All

## Project/Area Number

05803003

## Research Category

Grant-in-Aid for General Scientific Research (C)

## Allocation Type

Single-year Grants

## Research Field

経済政策(含経済事情)

## Research Institution

Kanazawa University

## Principal Investigator

上條 勇 金沢大学, 教養部, 助教授 (70113545)

## Project Period (FY)

1993

## Project Status

Completed (Fiscal Year 1993)

## Budget Amount \*help

¥700,000 (Direct Cost: ¥700,000)

Fiscal Year 1993: ¥700,000 (Direct Cost: ¥700,000)

## Keywords

民族 / 民族問題 / ナショナリズム / 民族自決権 / 民族自治

## Research Abstract

- (1)本研究は、グローバルエコノミーと民族の問題の関係を論ずる視点から、さしあたってハプスブルク帝国解体の歴史的経験を考察するものである。この点中欧の復活がうたわれている今日、帝国の民族問題の解決に真摯に取り組んだ、オットー・パウアーらオーストリア社会民主党の理論家たちの構想の重要性が本研究を通して改めて確認された。
- (2)本課題を果たすために、洋書、和書の購入、北海道大学、東京大学等の付属図書館並びに学部図書さらに国家図書館を中心に、不十分とはいえ文献資料の収集に努めた。
- (3)中京大学の丸山敬一教授をはじめ、民族問題の専門的研究者と情報交換と交流を深めた。また、平成6年3月末の民族問題の研究交流会では、本研究の成果として「オットー・パウアーの民族理論」の研究発表を予定している。
- (4)本研究の成果として、平成6年10月に刊行予定の拙著『民族問題の理論と思想』（平成5年刊行を目指したが計画の変更上平成6年に延期したもの）の草稿を作成した。この著書の出版に、今回の科学研究費補助金の助成は、まことに役立ったと言える。

## Report (1 results)

1993 Annual Research Report

## Research Products (2 results)

All Other

All Publications (2 results)

[Publications] 上條 勇: "民族問題の現代的視座" 情況. 1993年11月号. 184-190 (1993) ▼

[Publications] 上條勇: "民族問題の理論と思想" 梓出版社(予定), 300 (1994) ▼

URL: <https://kaken.nii.ac.jp/grant/KAKENHI-PROJECT-05803003/>

Published: 1993-03-31 Modified: 2018-06-07